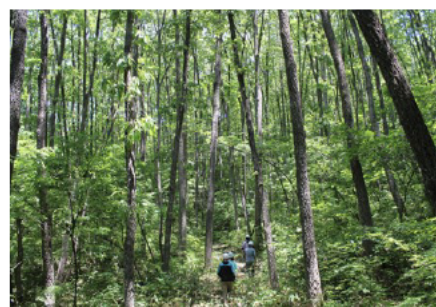


活動の場所

森林保全



活動目的

80年に渡る森林経営で育まれた生物多様性の保全と、自然資本の定量化による事業活動への活用

活動内容

アサヒグループは、水や農作物など「自然の恵み」を享受して事業活動を行っています。私たちは、より豊かな「自然の恵み」を守り、育み、生物多様性に配慮した事業活動を実践するため2010年3月に生物多様性保全活動の基盤となる考え方や方針をまとめた「生物多様性宣言」を公表しています。2019年1月には“Asahi Group Philosophy”の施行に伴い「アサヒグループ環境基本方針」の見直しと、「アサヒグループ環境ビジョン2050」を制定しました。

主な活動

1、「ウォーターニュートラル」の実現

水は、「自然の恵み」を享受して事業を行うアサヒグループにとって、欠かすことのできない大切な資源であり、地球環境にとっても大切な資源です。「アサヒグループ環境ビジョン2050」では、持続可能な水資源利用の実現にむけ、2025年までに日本のビール工場で使用する水と同量の水を、社有林「アサヒの森」における水涵養（森が水を育み蓄える能力）量で賄う「ウォーターニュートラルの実現」を目指しています。

2、社有林「アサヒの森」の責任ある森林経営と生物多様性保全

社有林「アサヒの森」は、1941年から持続可能な森林経営に取り組んでいます（2001年FSC認証取得）。80年に渡る森林経営のもと、アサヒの森は生物多様性が豊かな状態が保たれています。2010～2012年にアサヒの森全山で行った生物多様性調査では、植物668種、鳥類60種が確認されました。2014年には「アサヒの森 生物多様性保全の基本方針」を制定し、社有林内に数か所にセンサーカメラを設置するなど、現在も継続的に観察を行っています。

3、水源地の森林保全活動

「水」は、アサヒグループの事業に欠かすことのできない大切な資源です。2004年から社員による水を育む森林の保全活動を行っています。これまで15工場のべ8,000人が活動に参加しています。

PRしたいポイント

・80年間、適切な森林管理を続け、豊かな生物多様性を育む社有林「アサヒの森」。自然資本としての価値を定量化することでの事業活動へ組み込みや継続的な森林保全活動を行なっていること。

活動効果、今後の展開 等

- ・アサヒグループのウォーターニュートラルは、2021年目標達成見込みです。今後も継続して行きます。
- ・責任ある森林管理と生物多様性の保全に取り組むアサヒの森でのOECMの認証取得を目指します。